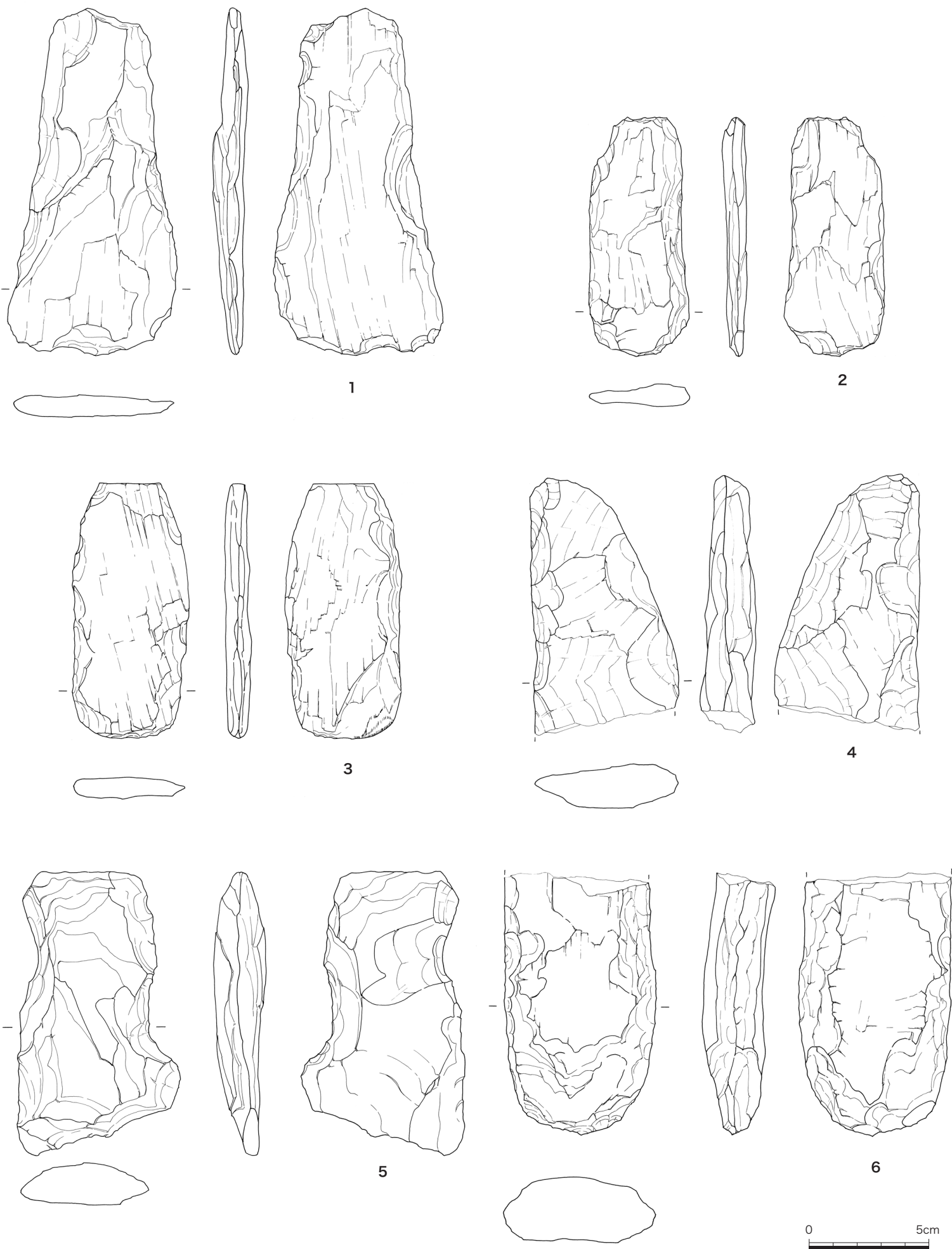


---

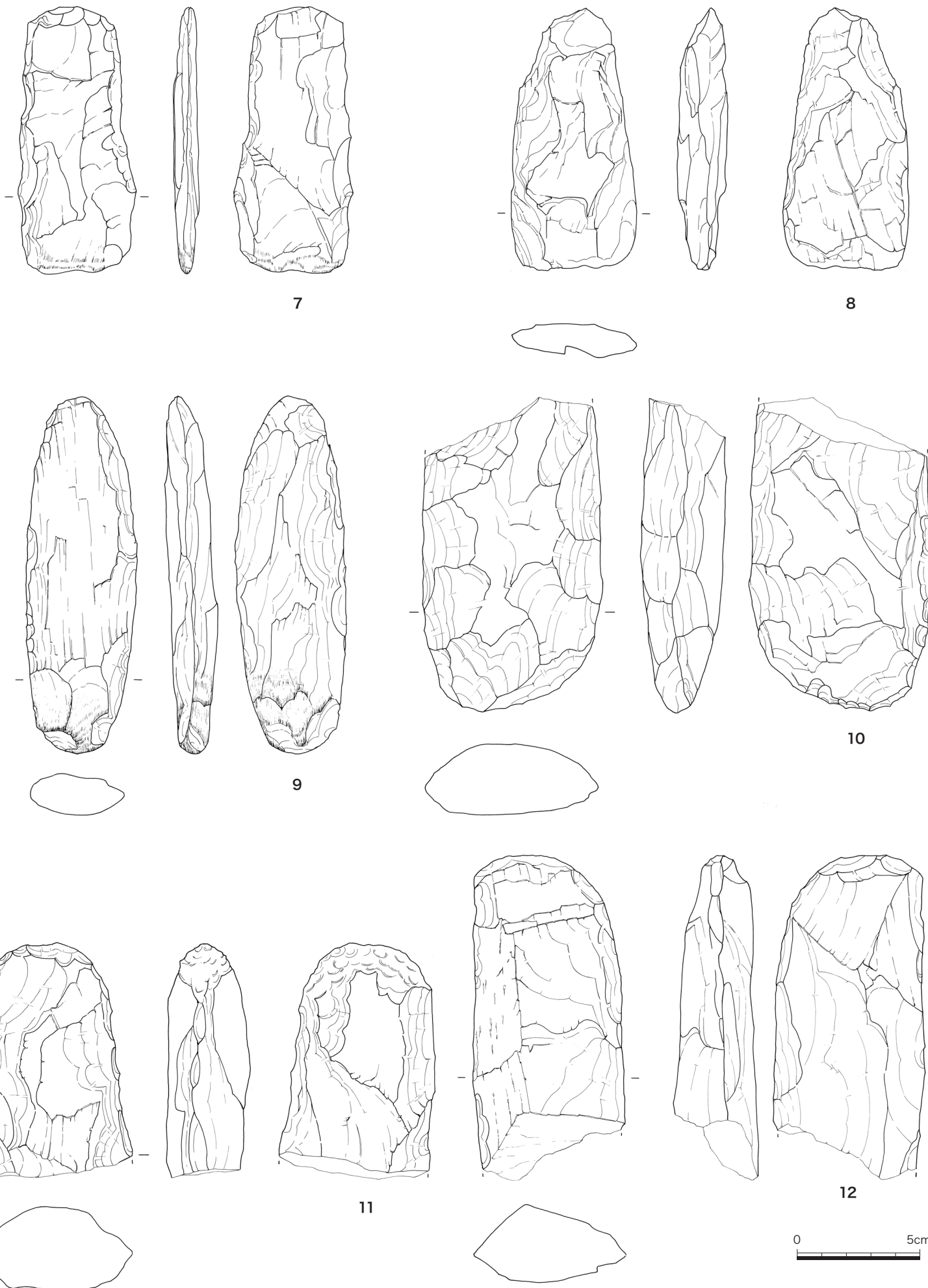
# アミダ遺跡 出土石器 資料 I

---

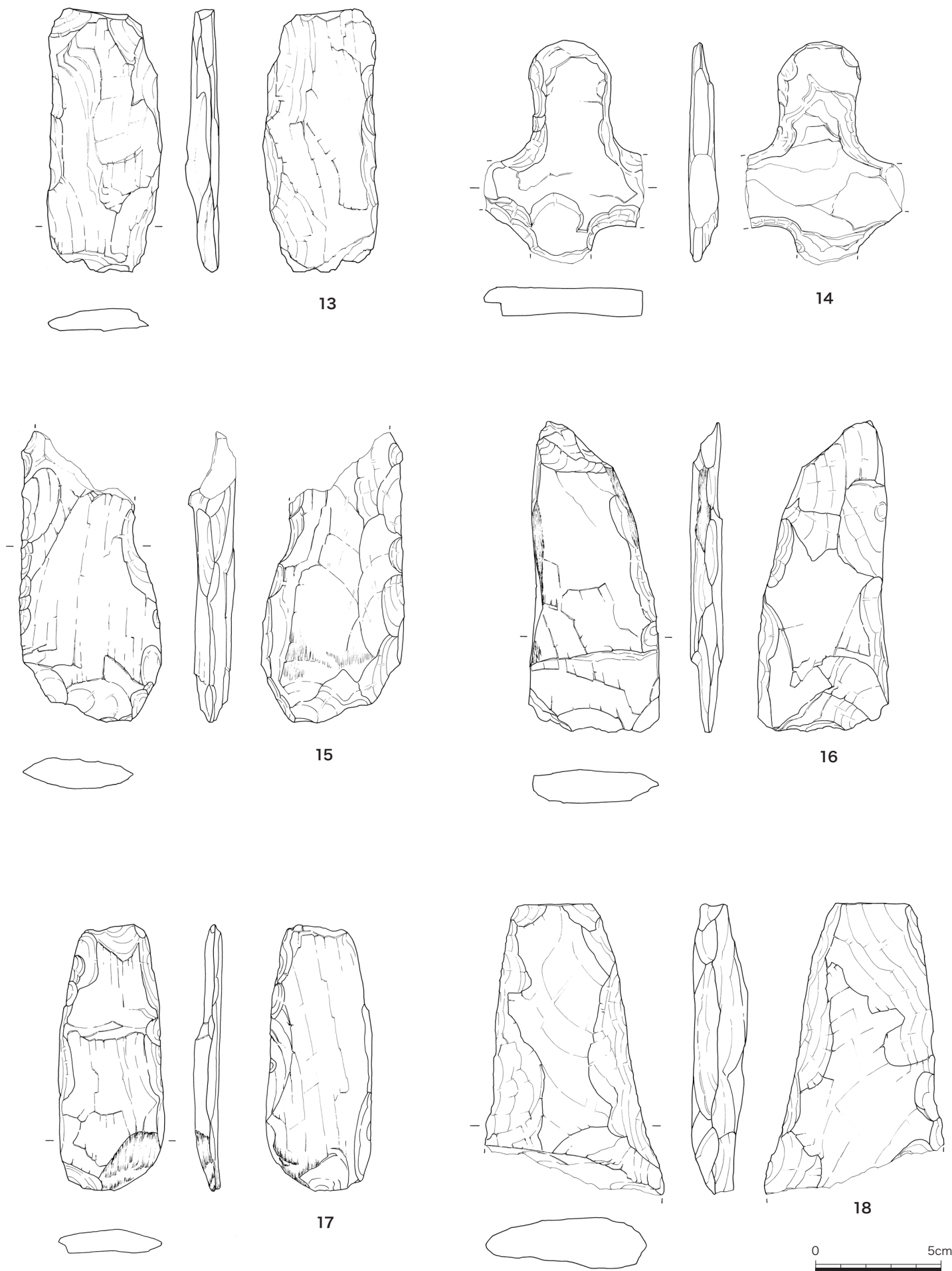
2023年4月  
嘉麻市教育委員会



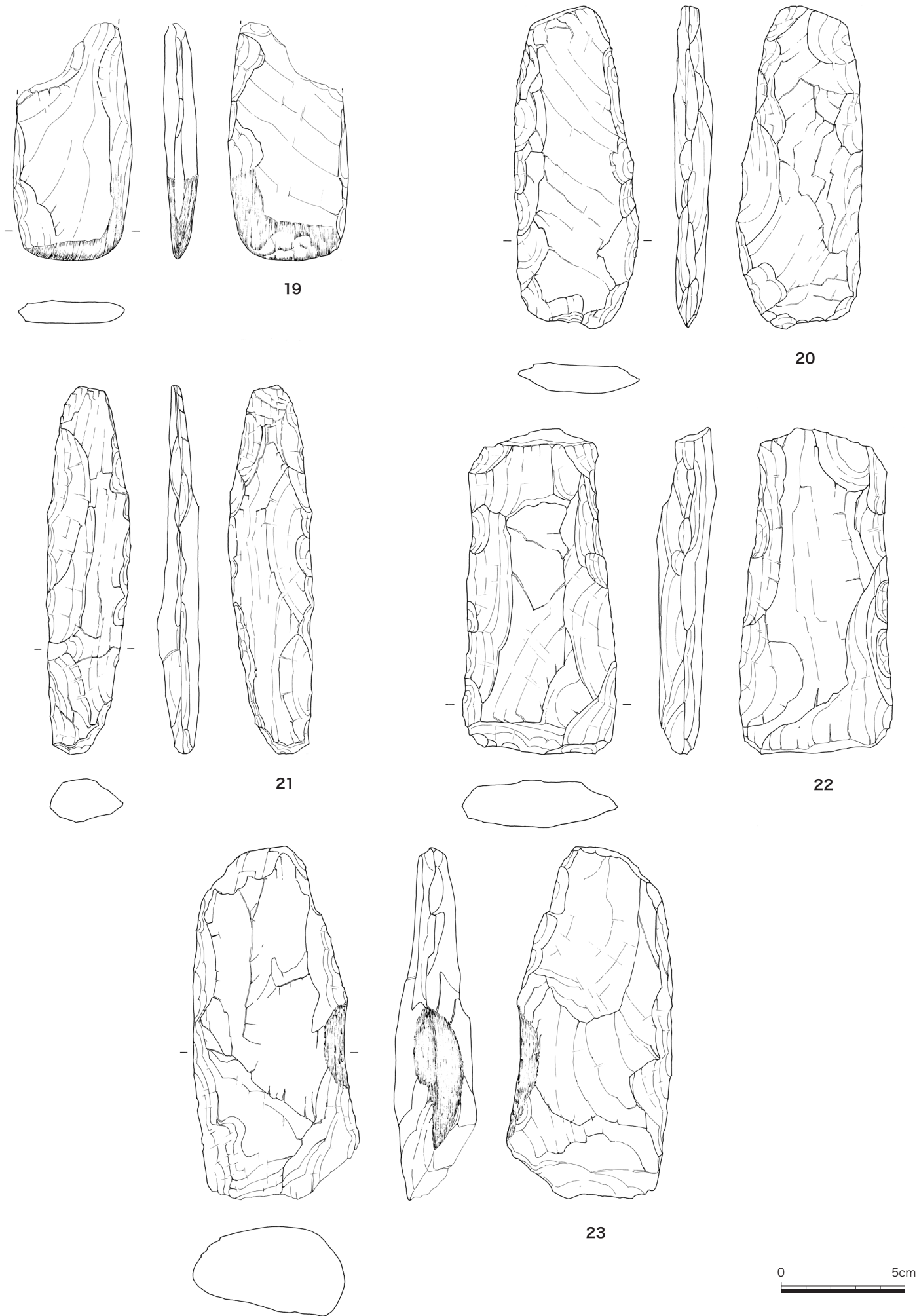
第1図 1、2 アミダ遺跡 A1号住居址出土 石器実測図 (1/2), 3、4 アミダ遺跡 A2号住居址出土 石器実測図 (1/2), 5、6 アミダ遺跡 A3号住居址出土 石器実測図 (1/2)



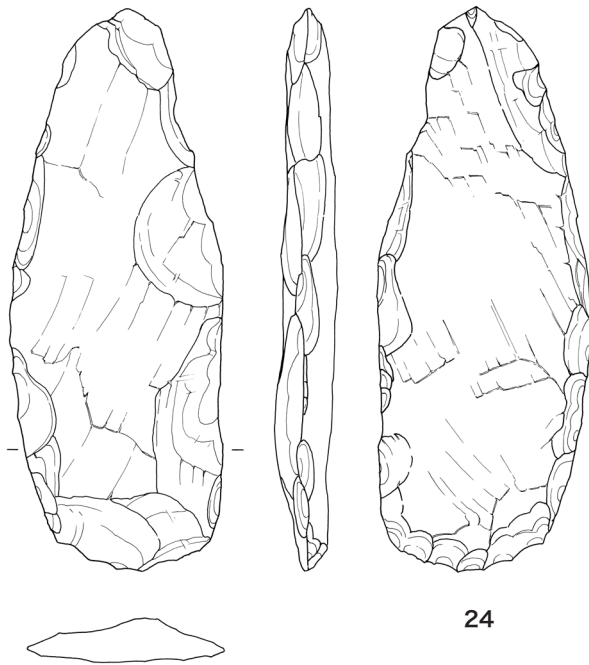
第2図 7~12 アミダ遺跡 A3号住居址出土 石器実測図 (1/2)



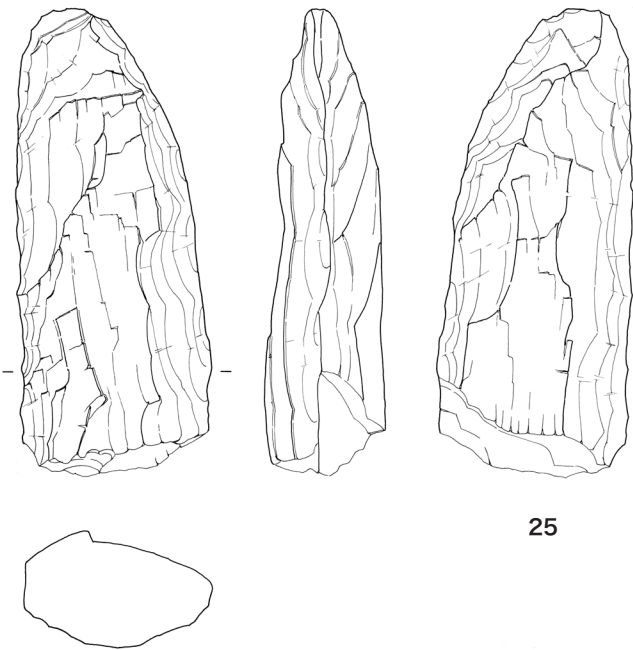
第3図 13 アミダ遺跡 A3号住居址出土 石器実測図(1/2), 14~18 アミダ遺跡 A4号住居址出土 石器実測図(1/2)



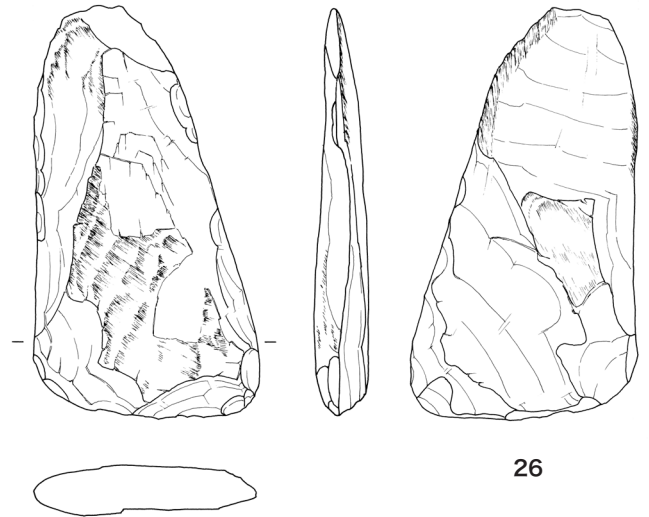
第4図 19~21 アミダ遺跡 A6号住居址出土 石器実測図 (1/2), 22、23 アミダ遺跡 A8号住居址出土 石器実測図 (1/2)



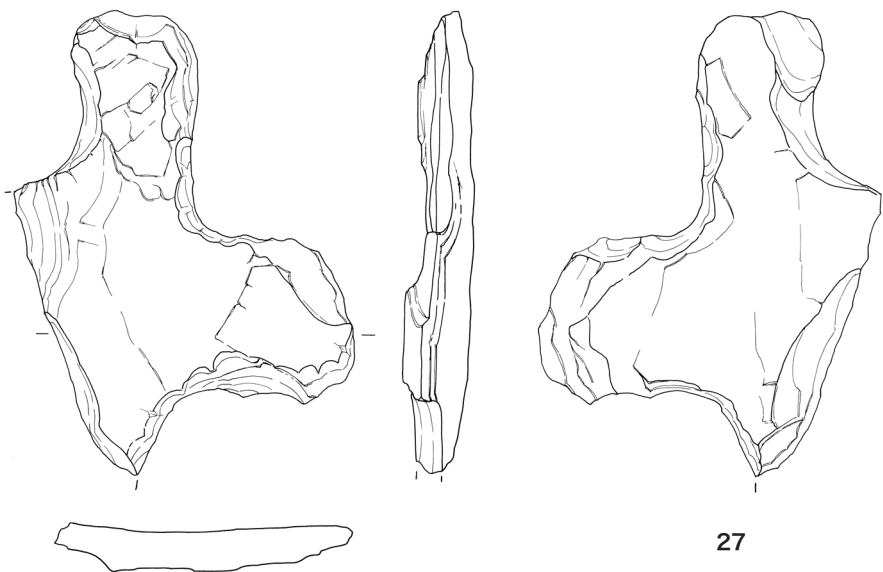
24



25



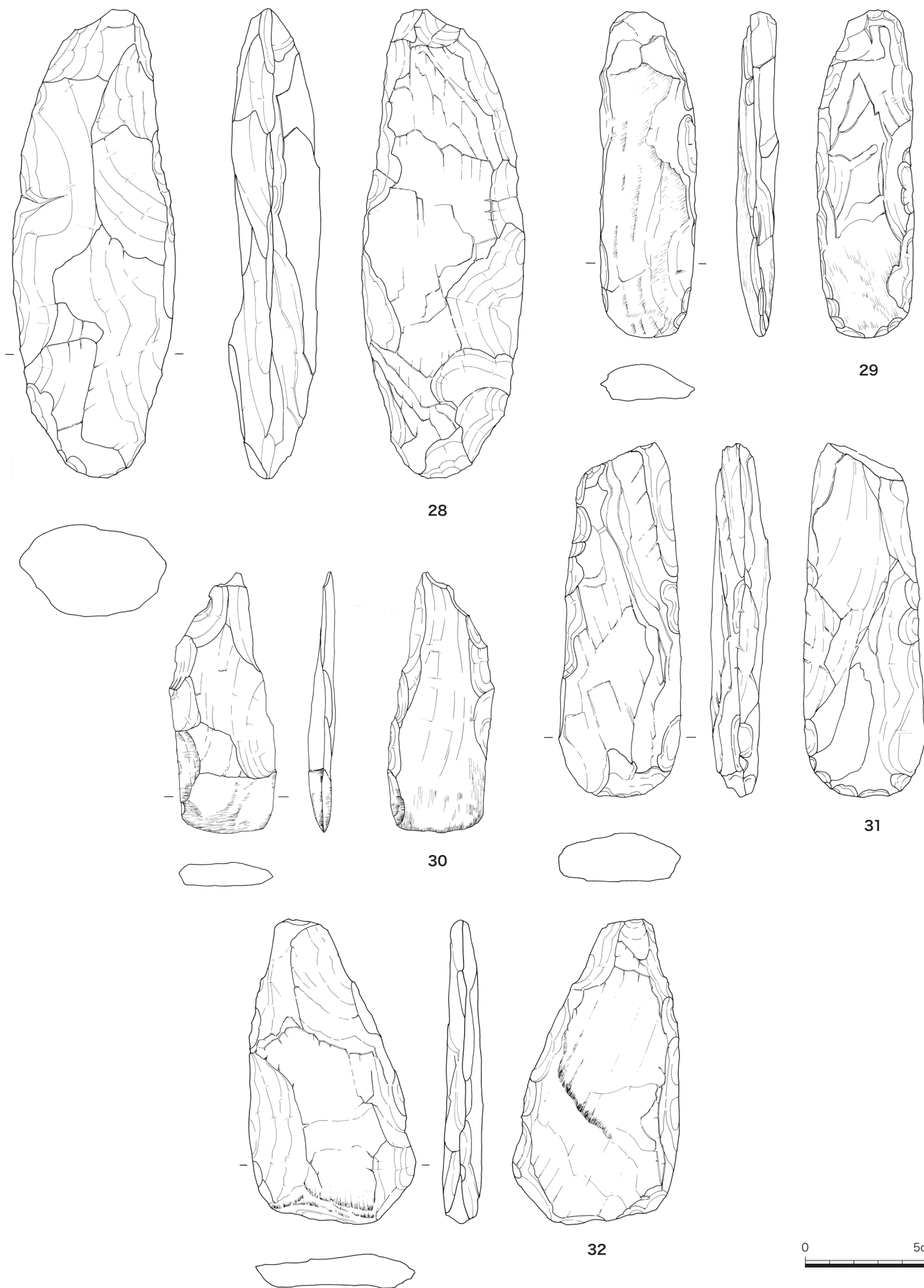
26



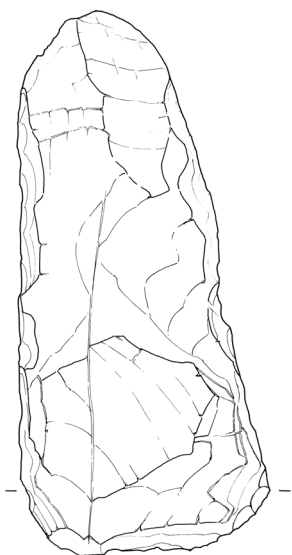
27



第5図 24～26 アミダ遺跡 A11号住居址出土 石器実測図 (1/2), 27 アミダ遺跡 A29号土坑出土 石器実測図 (1/2)

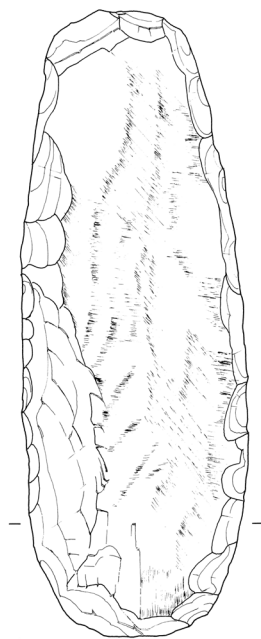


第6図 28 アミダ遺跡 A36号土坑出土 石器実測図 (1/2), 29 アミダ遺跡 A46号土坑出土 石器実測図 (1/2), 30~32 アミダ遺跡 A包含層出土 石器実測図 (1/2)



33

34



35

36

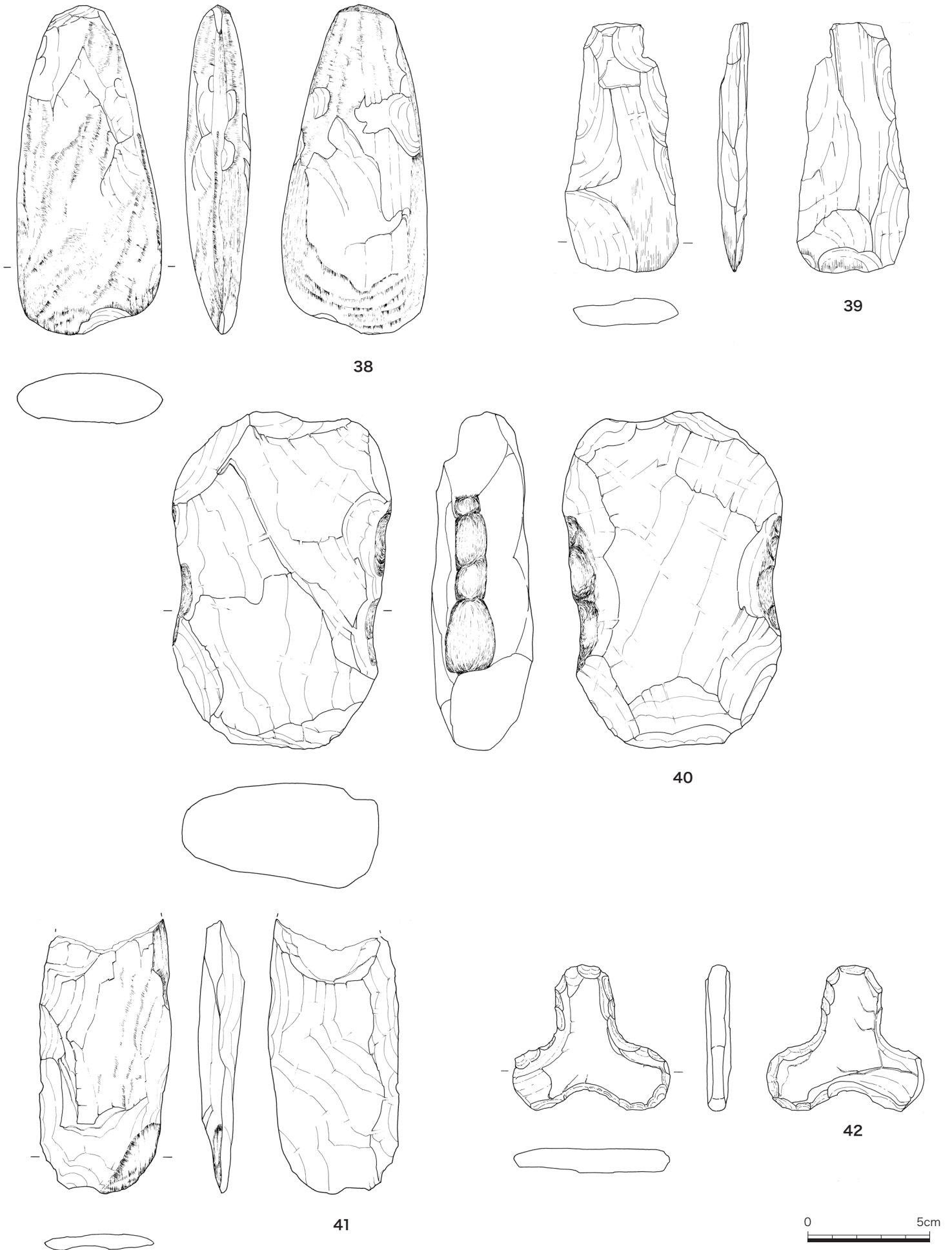


37

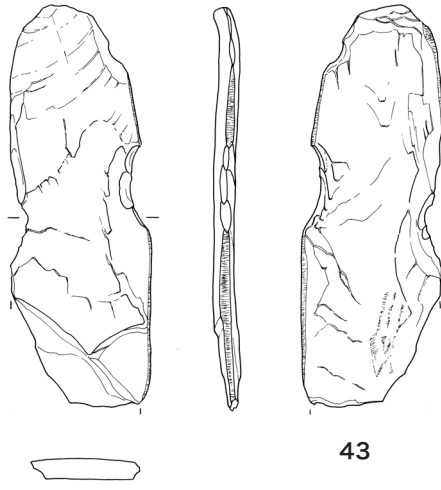


第7図 33~37 アミダ遺跡 A包含層出土 石器実測図 (1/2)

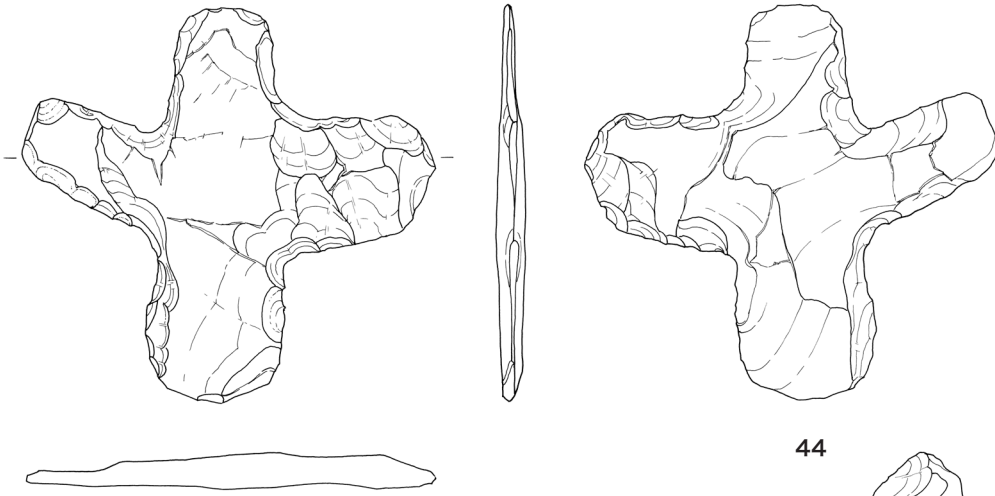




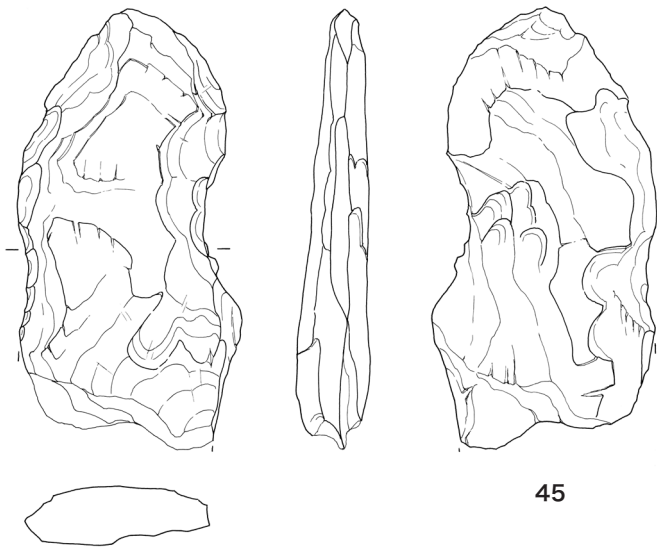
第8図 38 アミダ遺跡 A包含層出土 石器実測図(1/2), 39 アミダ遺跡 A溝状遺構出土 石器実測図(1/2), 40、41 アミダ遺跡 B1号住居址出土 石器実測図(1/2), 42 アミダ遺跡 B2号住居址出土 石器実測図(1/2)



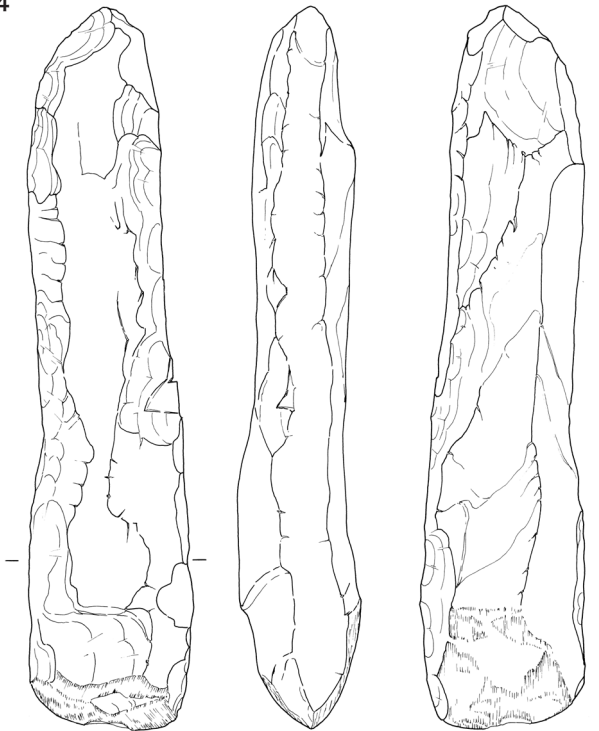
43



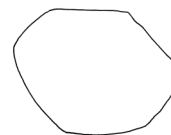
44



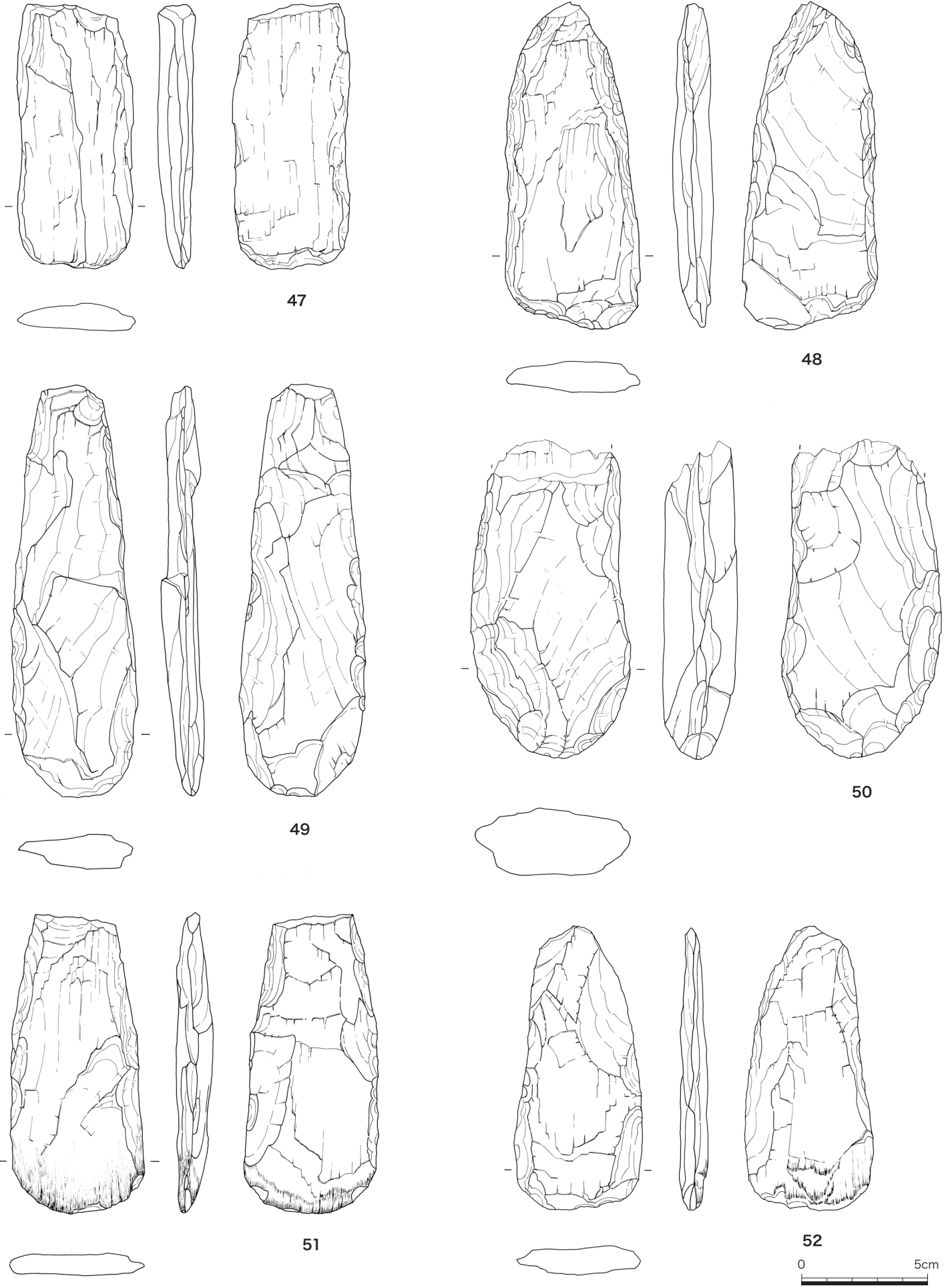
45



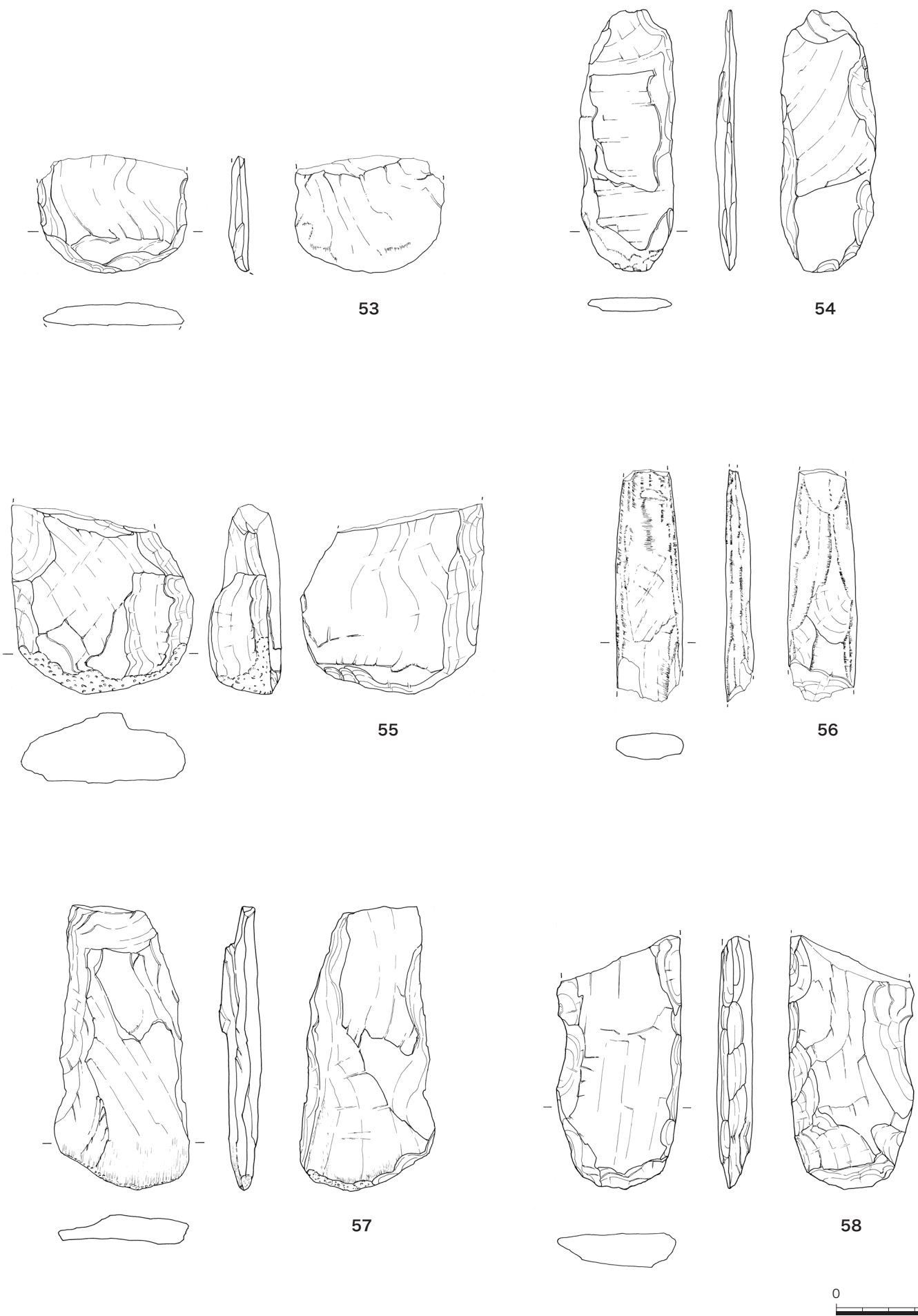
46



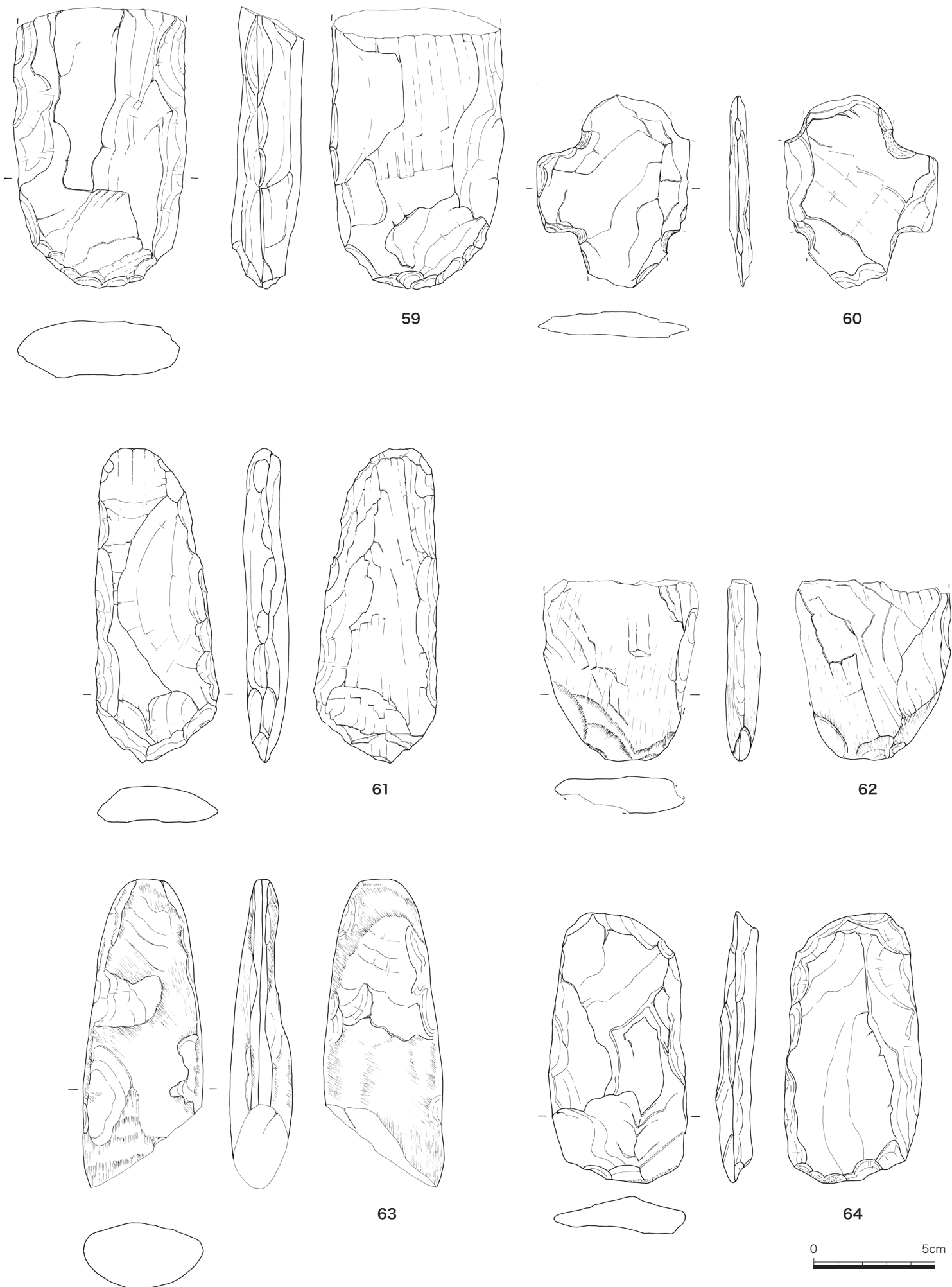
第9図 43 アミダ遺跡 B2号住居址出土 石器実測図 (1/2), 44~46 アミダ遺跡 B3号住居址出土 石器実測図 (1/2)



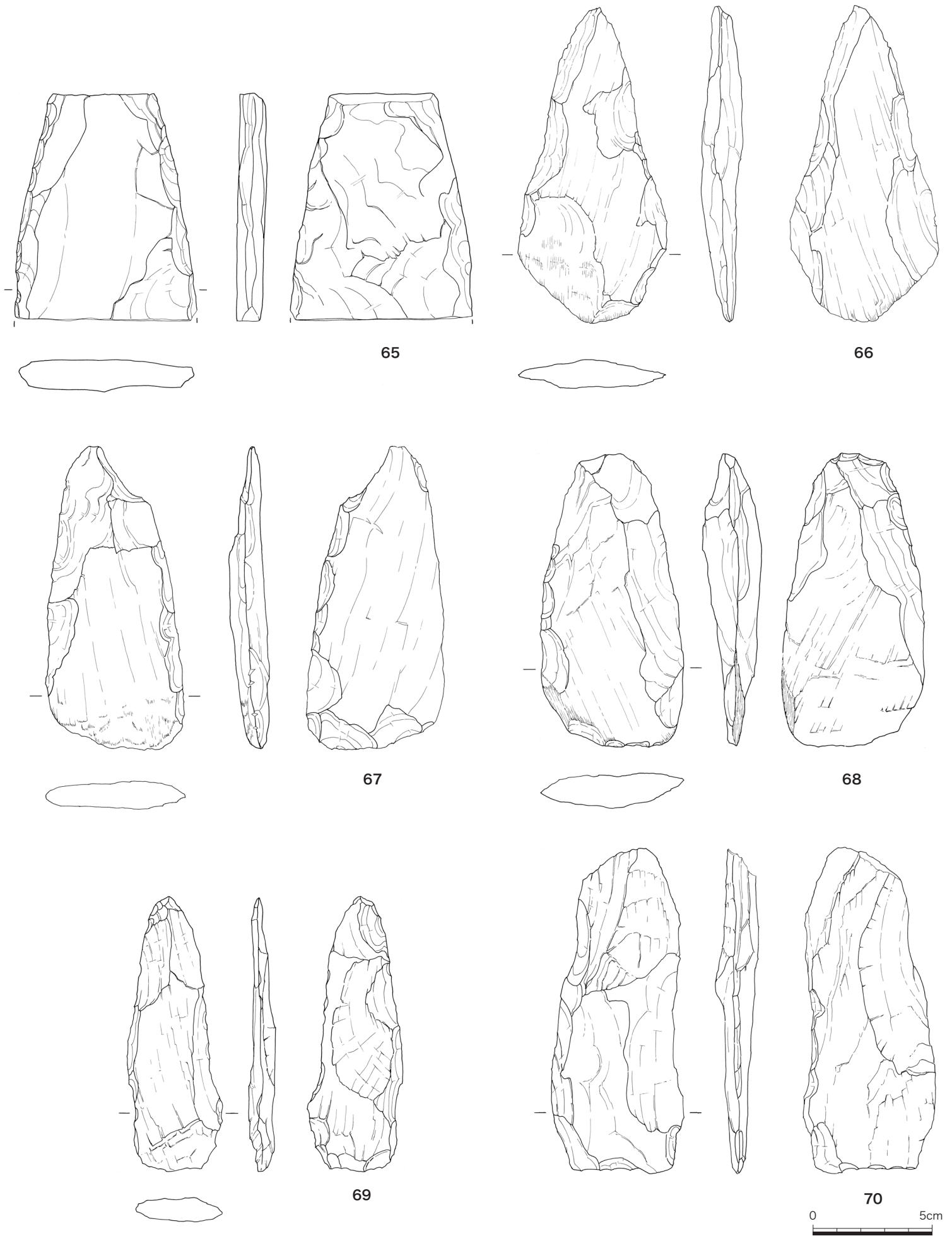
第10図 47、48 アミダ遺跡 B3号住居址出土 石器実測図 (1/2), 49、50 アミダ遺跡 B4号住居址出土 石器実測図 (1/2), 51、52 アミダ遺跡 B5号住居址出土 石器実測図 (1/2)



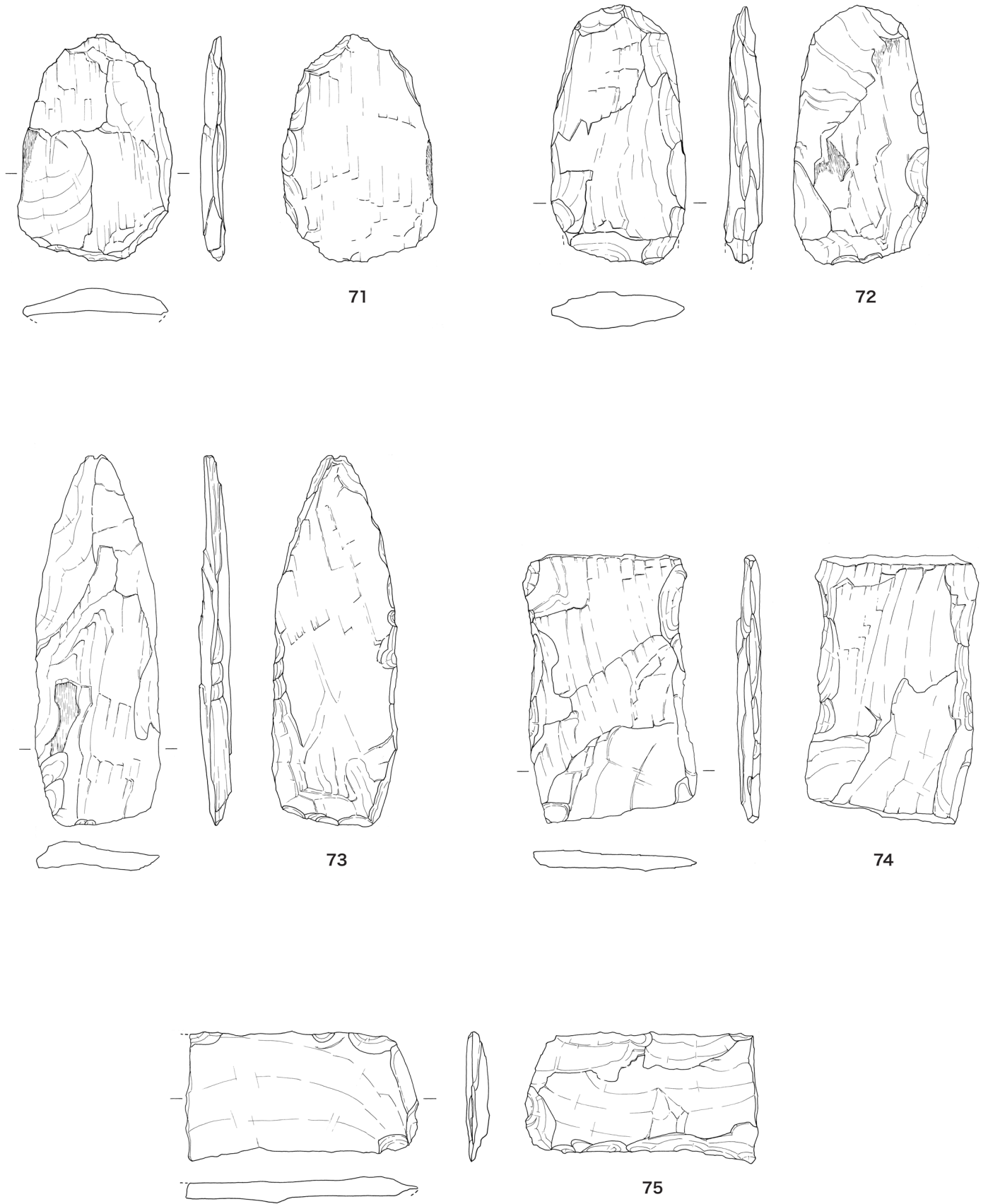
第11図 53 アミダ遺跡 B5号土坑出土 石器実測図 (1/2), 54~58 アミダ遺跡 B6号土坑出土 石器実測図 (1/2)



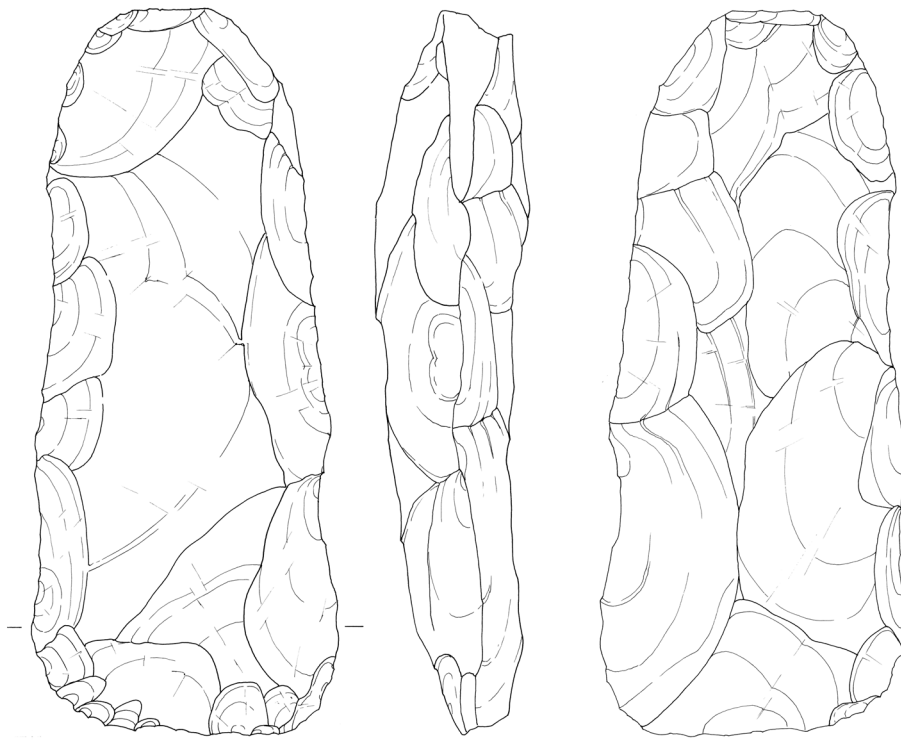
第12図 59 アミダ遺跡 B6号土坑出土 石器実測図 (1/2), 60、61 アミダ遺跡 B12号土坑出土 石器実測図 (1/2), 62~64 アミダ遺跡 B13号土坑出土 石器実測図 (1/2)



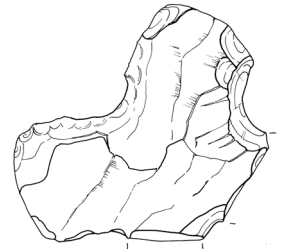
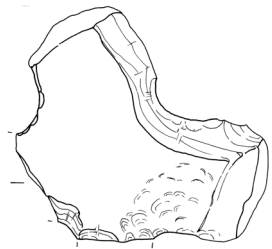
第13図 65 アミダ遺跡 B13号土坑出土 石器実測図 (1/2), 66~70 アミダ遺跡 不明出土 石器実測図 (1/2)



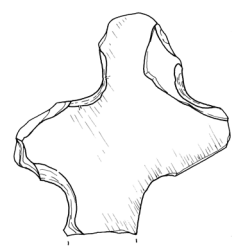
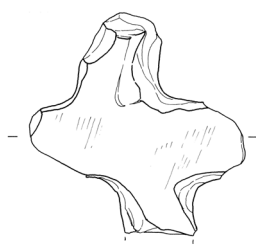
第14図 71~75 アミダ遺跡 不明出土 石器実測図 (1/2)



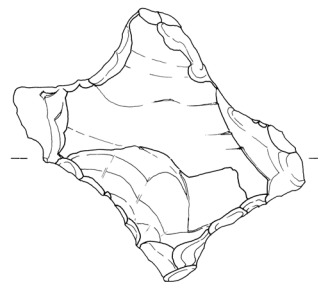
76



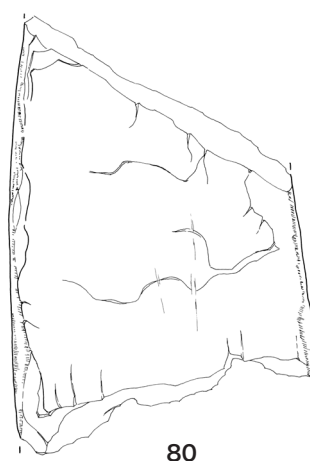
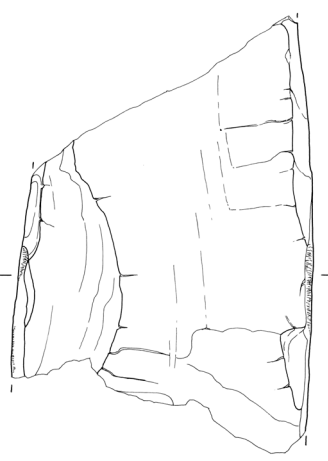
78



77



79

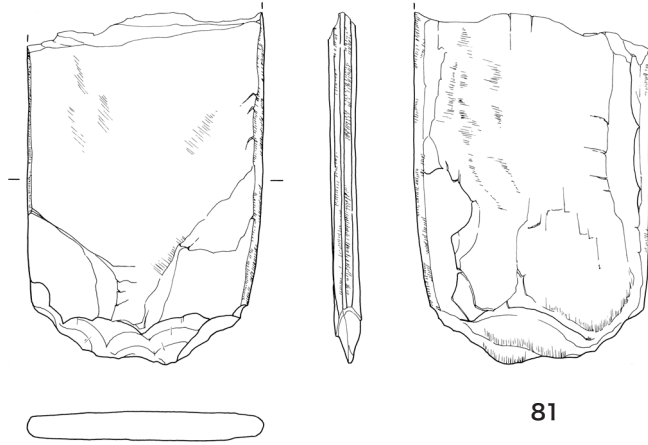


80

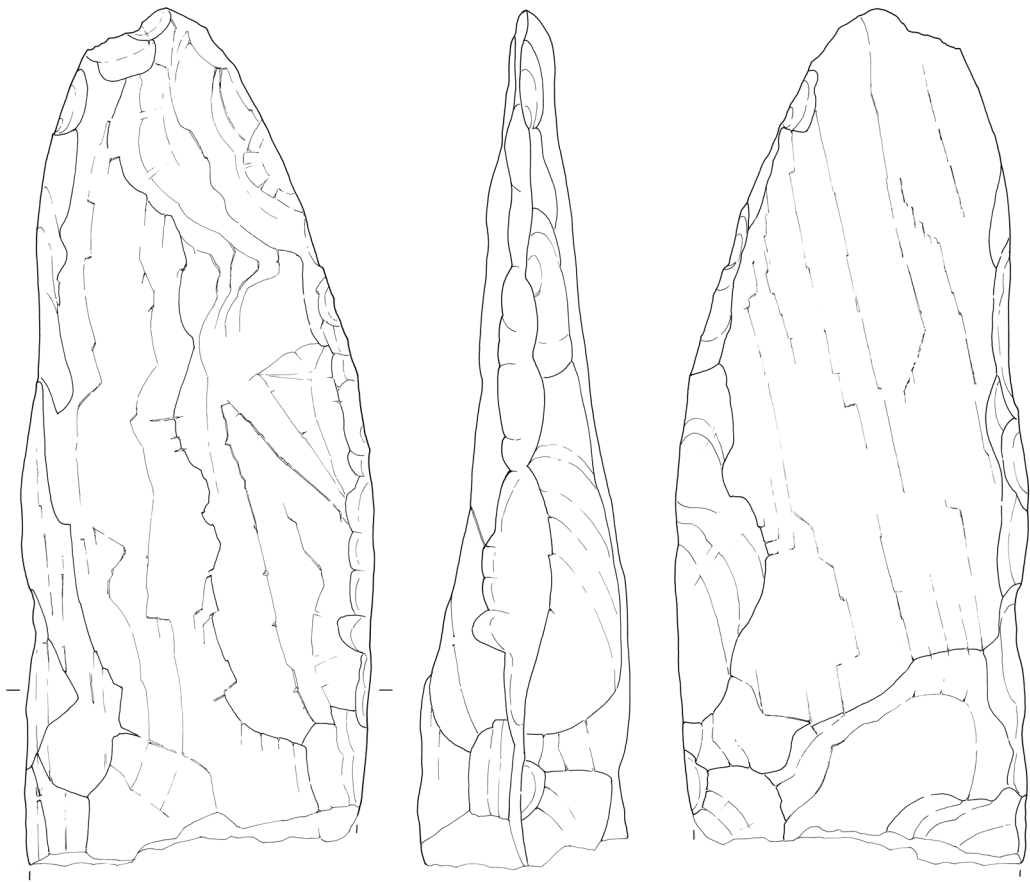


第15図 76~80 アミダ遺跡 不明出土 石器実測図 (1/2)

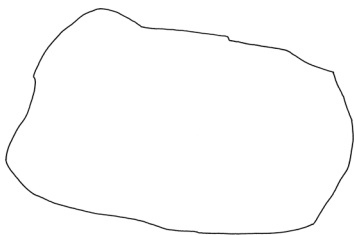




81



82



第16図 81、82 アミダ遺跡 不明出土 石器実測図 (1/2)

## アミダ遺跡出土石器実測図～資料1～

令和4年度において、アミダ遺跡出土遺物の再整理の途上ですが、打製石斧、十字形石器、磨製石斧等合計82点の石器を実測図しましたのでこの実測図を公開します。順次、未報告の石器資料についても今後公開していく予定です。石器研究の一資料として広く活用いただくことが出来れば幸いと存じます。

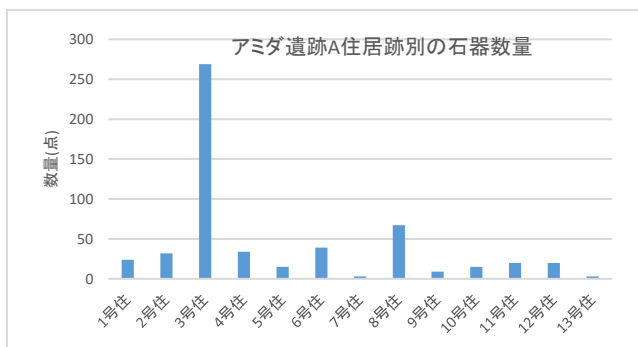
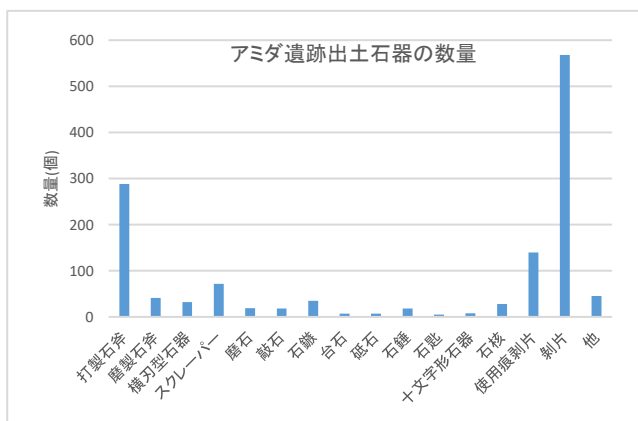
### 1 アミダ遺跡出土石器(表1,2)

現在、再整理で石器等の登録点数は1,331点を数え、そのうち半数が剥片及び使用痕剥片である。打製石斧は288点、磨製石斧は41点を数え全体の1/4の割合を占めている。

10点以下の数量となるが、台石、砥石、石錘、石匙、十文字形石器等多種の石器が出土している。

今回、登録する上で、打製石斧に、刃部磨製石斧、局所磨製石斧、磨製石斧未成品も含めて分類している。

完形及び完形に近く一部が欠損している石斧を中心に実測している。打製石斧の形状を基端と刃部の幅がほぼ等しく長方形を呈する個体を短冊形、端部の幅が刃部より狭い個体を撥型、基部の側面に抉りを有する個体を分銅型として区分する。石材に関しては圧倒的に片岩が多い。



アミダ遺跡A(以下、Aと略す)の住居跡別にみた石器点数をみると、A3号住居址出土点数がA出土の4割を占め、他の遺構より突出している。反対にA14号住居跡からの石器出土を確認していない。

アミダ遺跡B(以下、Bと略す)の全体登録点数は、212点でAの1/3を数え、登録点数の半数以上が使用剥片及び剥片で占め、打製石斧、スクレーパーで1/4弱を数える。

以下、掲載した実測図について形状の特徴等を遺構ごとに説明を加えるが、各土坑出土の石器に関しては一括して土坑としている。A、Bの調査地点及び遺構の判別できない石器については不明として登録している。

本文中で記している石斧各部位の名称は、刃先を刃端と、刃先及び側面を含む部分を刃部と、刃部より上を基部、端部としている。擦過痕については使用による摩耗痕と、研ぎ出しによる研磨痕として区分しているが、摩耗痕の中には研磨途中の痕を示しているものも考えられ、その判断が難しい。

#### A1号住居跡出土石器(第1図1,2)

A1号住居跡出土の打製石斧7個体のうち、2点を図示する。1は基部の両側面に打撃を加え弱いくびれがみられるが、撥型に区分する。刃部は使用による小さな剥離痕が見られる。2は長方形を呈し短冊形に区分する。基部片側面に打撃がある。

#### A2号住居跡出土石器(第1図3,4)

A2号住居跡出土の打製石斧6個体のうち完形及び刃部が欠損する2個体を図示する。③は短冊形で端部に打撃痕は見られず水平面を呈する。刃部に片面には使用による細かい剥離痕、もう一方の面には使用による擦過痕が認められ、刃縁は丸みを帯びている。4の端部は丸みを帯び、刃部を欠損する。基部の片方向より強い打撃により調整されている。

#### A3号住居跡出土石器(第1～3図5～13)

A3号住居跡から出土した石器の登録点数は269点を数え、遺構ごとの登録点数では突出して多い。A3号住居跡出土の打製石斧48点のうち、8点を図示する。5の端部は水平、基部両側面には敲打により弱いくびれが見られ、刃部の片面に打撃痕がみられ使用による欠損として考える。6は端部及び基部が欠損し、刃部は丸みを帯びている。基部側面、

刃部に細かい敲打による調整がなされており、磨製石斧未成品の残欠と考える。7は短冊形を呈し刃部両面に使用に伴うと考えられる摩耗が見られる。8の端部は尖り気味を呈し撥形としているが、端部付近の欠損とも考えられる。刃端は丸い。9の端部及び刃部は丸みを帯び、基部側面中央部が膨らむ長楕円形を呈する。刃部両面に使用による摩耗痕と打撃痕が見られる。10は刃部が丸み帯びる磨製石斧の未成品と考える。11の端部は細かな敲打で丸く整形され、また、厚さからと断面の形状から磨製石斧の未成品と考える。刃部を欠損する。12は打撃段階での欠損か、基部の片側側面に石材の表面を残している。13は短冊形で、刃部は凸凹を呈し使用による欠損が考えられる。

#### A4号住居跡出土石器(第3図14~18)

A4号住居跡出土の打製石斧12点のうち、5点を図示する。14は十字形石器の残欠で、石材は金雲母を含む砂岩質の片岩と考える。15は端部が欠損する短冊形の打製石斧で、基部の片側側面に弱い挟りと、刃部片面の一部に摩耗痕が見られる。16は端部が尖り撥形を呈し、基部片側側面に摩耗痕が見られ、刃部は段を呈して狭くなっており使用による欠損が考えられる。17は刃部両面の一部に摩耗痕が見られる。18は端部が水平面をなし、刃部が欠損する撥型の打製石斧である。

#### A6号住居跡出土石器(第4図19, 20, 21)

A6号住居跡出土の打製石斧7点のうち、3点を図示する。19は刃部磨製の石斧で端部を欠損する。20の刃端に凹が見られ使用による欠損が考えられる。21は細長い形状を呈し、基部片側を敲打により調整している。刃端は使用による欠損が考えられる。

#### A8号住居跡出土石器(第4図22, 23)

A8号住居跡出土の打製石斧9点のうち、2点を図示する。22は短冊形で、刃端に使用痕が見られる。23の基部側面の片側に緩く内湾する摩耗痕が見られる。端部は丸く、刃部は大きく欠損している。

#### A11号住居跡出土石器(第5図24, 25, 26)

A11号住居跡出土の打製石斧10点のうち、3点を図示する。24は基部の側面がやや膨らみ、刃端に小さな剥離痕が見られ使用欠損が考えられる。25は厚さ3cmを測り、長楕円形の断面を呈し、丸

い端部の形状から、刃部が欠損する敲打段階の磨製石斧未成品と考える。26は撥形を呈し、基部両面に摩耗痕が見られる。

#### A29号土坑出土石器(第5図27)

27は十字形石器の残欠でくびれ部分の敲打痕が摩滅している。

#### A36号土坑出土石器(第6図28)

28の基部は膨らみ、平面及び断面の形状が長楕円形を呈していることから、粗い敲打段階の磨製石斧未成品として考える。

#### A46号土坑出土石器(第6図29)

28の基部両面に研磨痕がみられ、各面の研磨の方向は横方向と縦方向とが見られる。刃部には明瞭な鋸はなく緩やかな曲面を呈している。

#### A包含層出土石器(第6~8図30~38)

A包含層では刃部磨製石斧等を含む打製石斧12点、磨製石斧5点を登録し、このうち打製石斧6個体、磨製石斧3個体を図示する。

30は刃部磨製石斧で端部は欠損によるものか尖っている。刃部は欠損痕がなく研磨による平刃の刃端を呈する。31の刃端は小さな敲打により丸みを帯び、断面は長楕円形状を呈していることから敲打段階の磨製石斧未成品とも考えられる。32は端部がすぼまり撥形の打製石斧で、刃部の片面と基部の片面中央部に摩耗痕が見られる。33は基部片方の側面から強い打撃により調整された撥型の打製石斧である。34には基部両側面の端部寄りに弱い挟りが施され分銅形としている。35の形状は撥形を呈し、刃部と基部の一部に研磨痕がみられることから局部磨製石斧としている。36の形状は長楕円形を呈し、基部両面に研磨痕がみられ、基部両側面は小さな敲打による調整痕が残っていることから、磨製段階の磨製石斧未成品と考える。37は小型で長方形を呈し、刃部、基部の表面及び側面を研磨している磨製石斧で、刃部には明瞭な鋸はないが、基部からの屈曲の度合いが異なり片刃に近い形状を呈している。端部は剥離痕が途中で途切れていることから欠損していると考えられる。38は全面に研磨がみられるが、側面に明瞭な稜はなく断面は長楕円形となる。刃端に欠損が見られる。

### A 溝出土石器(第 8 図 39)

39 は刃端に使用による摩耗痕が見られる短冊形の打製石斧。刃部にみる大きな剥離面は横位の剥離であることから使用時の欠損ではなく製作段階の敲打痕と考える。

### B1 号住居跡出土石器(第 8 図 40, 41)

B1 号住居跡出土の打製石斧 2 点を図示する。40 の厚さは 4.2cm を測り、基部の両側面には敲打によって生じた稜を摩耗する痕が見られ、また、刃端と推測する箇所は平坦面を呈している。41 は刃端が丸い短冊型を呈し、刃部と端部に近い基部の片側側面及び基部の片面に研磨痕が残る。刃部磨製石斧の残欠と考える。

### B2 号住居跡出土石器(第 8, 9 図 42, 43)

B2 号住居跡出土の打製石斧 1 点と十字形石器(Y字形)1 点を図示する。42 は Y 字形の石器で 2 ヶ所の挟り部分で摩耗痕が見られる。43 は厚さ 0.5cm を測る薄型の剥片に基部両側面にずれた位置に挟りを施している。

### B3 号住居跡出土石器(第 9, 10 図 44~48)

B3 号住居跡出土の十字形石器 1 点と打製石斧 6 点のうち 4 点を図示する。44 は完形の十字形石器で挟り部分に摩耗痕は見られない。45 は端部が尖り基部両側面にずれた位置に弱い挟りが施されている。刃部は欠損する。46 は幅 4.3cm、厚さ 3.2cm を測り断面が不整形を呈する棒状の刃部磨製の石斧である。刃端に使用欠損痕が見られる。47 は器面を調整する敲打痕のない短冊型の打製石斧である。48 は端部が尖る撥形の打製石器で刃端の片側面に使用に伴う細かな欠損痕が見られる。

### B4 号住居跡出土石器(第 10 図 49, 50)

B4 号住居跡出土の打製石斧 3 点のうち 2 点を図示する。49 は長さ 19.2cm を測り、今回図示している完形の打製石斧 38 点の中で長さが 19cm を超える 3 点のうちの一つである。50 は厚さ 2.8cm を測るもので、敲打段階の磨製石斧未成品ともみられる。

### B5 号住居跡出土石器(第 10 図 51, 52)

B5 号住居跡出土の打製石斧 2 点を図示する。51 の刃部両面に擦過痕が見られ、使用による摩耗痕か、鏝が明瞭でないが刃を研ぎだしている研磨痕とも考えられる。52 の刃部片面の敲打境に摩耗痕

が見られる。

### B1 号土坑出土石器(第 11 図 53)

53 は刃部付近の残欠で、基部片面がほぼ平坦であることから剥ぎ落ちた破片資料と考えられる。

### B6 号土坑出土石器(第 11, 12 図 54~59)

54 は厚さ 0.5cm を測る剥片で、片面に弱い摩耗痕が見られることから刃部としている。55 の刃部相当する場所に細かな敲打痕が見られ平坦面をなしていることから敲石の可能性もある。端部を欠損する。56 は刃部と端部を欠損する小型磨製石斧の残欠で横位の研磨痕が見られる。57 は短冊形の打製石斧で刃端に細かな打撃痕、刃部両側面に摩耗痕が見られる。58 は端部が欠損する短冊型の打製石斧と考えるが、基部片側面が強い打撃により弱い挟りを形成しているようにも見える。59 の厚さは 2.4cm を測るもので、敲打段階の磨製石斧未成品ともみられる。

### B12 号土坑出土石器(第 12 図 60, 61)

60 は 4 方向の端部が欠ける十字形石器の残欠で、挟り部分に摩耗痕が見られる。61 は刃部が欠損する打製石斧で、基部片側面の強い打撃後に器側面の調整がなされている。

### B13 号土坑出土石器(第 12, 13 図 62~65)

62 の刃部に研磨痕がみられ、基部にも弱い研磨痕が見られることから、局部磨製石斧とている。63 は刃部が欠損する磨製石斧で、基部に敲打痕が部分的に残る。64 は基部の片方から強い打撃を加え調整した痕跡を残す短冊形の打製石斧である。刃端の片側に細かな敲打痕が見られる。65 は凝灰岩で、両端部は水平面を、平面形は台形を呈し完形とも考えられるが、刃部が欠損している石斧としている。

### アミダ遺跡不明遺構石器(第 13~16 図 66~82)

アミダ遺跡出土ではあるが再整理の段階で出土遺構の判別をなしえなかった遺物を図示するが、その大半は包含層出土と考えられる遺物である。

66 は端部と刃端が尖る撥形の打製石斧で、刃部両面に使用による摩耗痕が見られる。67 は基部片側側面の一面に大きな打撃痕が見られ、刃部片面に使用による摩耗痕が見られる。68 は刃部が使用により大きく欠損し、刃部側面の一部に研磨痕が残る刃部磨製石斧の残欠と考える。69 は基部片側

からの打撃で調整された打製石斧。70 は基部片側からの打撃で調整された打製石斧で刃端は平である。71 は基部片側側面の一部に摩耗痕がみられ、刃部が欠損し基部で大きく剥落した残欠と考えられる。72 は刃部欠損が考えられる短冊形の打製石斧で、基部片面の一部に摩耗痕が見られる。73 は端部が尖る撥形の打製石斧で、基部片側側面の一部に摩耗痕が、刃端部に使用による打撃痕が見られる。74 は平面形が方形を呈し、側面は均一な厚みとなる打製石斧とするが、刃部欠損の可能性も考えられる。75 は横刃として実測するが、短冊形石斧の片面が大きく剥ぎおちた残欠とも考えられる。76 は短冊形の打製石斧で刃部は片面に細かい敲打により調整がなされている。77 は1方を欠く十字形石器の残欠で、器表面に弱い摩耗痕が見られる。78 は2方を欠く十字形石器の残欠で、1ヶ所の挟りには穴を穿つような敲打痕が見られ、端部は摩耗痕が見られる。79 は挟りの浅い十字形石器で、挟り部分には摩耗痕が見られる。

80 は基部両側面に研磨痕が見られ、側面は緩やかな湾曲を呈している。刃部と基部が欠損する局部磨製石斧と考えられる。81 の側面はほぼ平行で研磨痕が見られ、側端部と表面との間に稜を介している。刃部片面に摩耗痕が反対の面に使用に伴う欠損がみられ、基部の両面に弱い摩耗痕が見られる。82 は基部の片側側面を敲打により調整し、刃部方向に向かって厚くなる打製石斧で、刃部を欠損している。

表1 アミダ遺跡A, B出土石器の遺構別数量表

石器名称 地点 遺構	打製石斧	磨製石斧	横刃型石器	スクレーパー	磨石	敲石	石鏃	台石	砥石	石錘	石匙	十字形石器	石核	使用痕剥片	剥片	他	合計
	A 1号住居跡	7	1	2	0	1	2	1	1	1	1	2	0	0	3	2	0
A 2号住居跡	6	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	3	16	0	32
A 3号住居跡	48	9	9	11	7	5	5	3	2	1	0	0	4	14	145	6	269
A 4号住居跡	12	2	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	10	1	34
A 5号住居跡	5	3	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1	15
A 6号住居跡	7	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	3	22	1	39
A 7号住居跡	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
A 8号住居跡	9	2	3	6	4	1	1	0	0	0	0	0	0	5	32	4	67
A 9号住居跡	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	9
A 10号住居跡	4	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	15
A 11号住居跡	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	8	0	20
A 12号住居跡	1	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1	3	10	0	20
A 13号住居跡	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
A 土坑	14	3	0	1	0	3	4	1	1	0	1	1	1	4	23	5	62
A 溝	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	14
A 包含層	12	5	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	29
A 甕等	5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	1	15
アミダA小計	148	26	26	26	17	17	12	7	6	5	5	2	13	39	299	22	670
B 1号住居跡	2	1	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	1	6	25	1	42
B 2号住居跡	0	0	3	3	0	0	2	0	0	0	0	1	0	5	14	2	30
B 3号住居跡	6	1	0	7	0	0	3	0	0	0	0	1	1	6	13	0	38
B 4号住居跡	3	1	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	2	8	18	1	42
B 5号住居跡	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	8
B 土坑	14	4	3	4	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	21	1	52
アミダB小計	27	7	6	23	2	0	11	0	0	0	0	3	4	28	96	5	212
不明 不明	113	8	0	23	0	1	12	0	1	13	0	3	11	73	173	18	449
合計	288	41	32	72	19	18	35	7	7	18	5	8	28	140	568	45	1331

表2 アミダ遺跡出土の掲載した石器の法量等一覧表

掲載No.	調査地点	遺構等	石器名称	長	幅	厚	形状	石材	部位等	特徴	実測No.	登録No.
1	A	1号住居跡	打製石斧	14.5	6.7	0.9	撥形	片岩	完形	基部両側面に弱いくびれが見られる	実測41	1983
2	A	1号住居跡	打製石斧	10.0	4.2	0.8	短冊形	片岩	完形		実測49	1974
3	A	2号住居跡	打製石斧	10.8	4.6	0.9	短冊形	片岩	完形	刃部片面に摩耗痕が見られる	実測44	1991
4	A	2号住居跡	打製石斧	10.7	6.0	2.0	撥形	片岩	刃部欠損		実測73	1987
5	A	3号住居跡	打製石斧	11.9	5.4	1.8	分銅型	片岩	刃部欠損	基部両側面に弱いくびれが見られる	実測35	2013
6	A	3号住居跡	打製石斧(磨製未成品)	11.0	6.4	2.6		片岩	一部欠損	基部両側面に敲打痕が見られる 磨製石斧未成品残欠力?	実測42	2017
7	A	3号住居跡	打製石斧	10.8	4.8	1.0	短冊形	凝灰岩	完形	刃部両面に摩耗痕が見られる 報告書61図39	実測43	2001
8	A	3号住居跡	打製石斧	10.7	5.1	1.3	撥形	片岩	完形		実測45	2014
9	A	3号住居跡	打製石斧	14.5	3.9	1.7		片岩	完形	刃部両面の一部に摩耗痕が見られる	実測50	2005
10	A	3号住居跡	打製石斧(磨製未成品)	12.8	7.0	3.0		片岩	基端部欠損	敲打段階の磨製石斧の未成品残欠力?	実測51	2000
11	A	3号住居跡	打製石斧(磨製未成品)	9.6	6.2	3.2		片岩	一部欠損	敲打段階の磨製石斧の未成品残欠力?	実測52	2015
12	A	3号住居跡	打製石斧	13.2	6.3	3.2	短冊形	片岩	刃部欠損	基部の一部に自然面が残る	実測69	2016
13	A	3号住居跡	打製石斧	10.5	4.5	0.9	短冊形	片岩	刃部欠損		実測74	2009
14	A	4号住居跡	十字形石器	8.8	6.4	1.1		片岩	残欠	3方欠損	実測26	2040
15	A	4号住居跡	打製石斧	11.5	4.9	1.4	短冊形	片岩	基端部欠損	基部片側面に弱いくびれと、刃部片面の一部に摩耗痕が見られる	実測48	2028
16	A	4号住居跡	打製石斧	12.4	5.0	1.3	撥形	片岩	刃部欠損	基部両側面の一部に摩耗痕が見られる	実測59	2037
17	A	4号住居跡	打製石斧	10.6	4.2	0.9	短冊形	片岩	完形	刃部両面の一部に摩耗痕が見られる	実測67	2038
18	A	4号住居跡	打製石斧	11.6	6.4	2.0	撥形	片岩	刃部欠損	基端は水平となる	実測72	2032
19	A	6号住居跡	刃部磨製石斧	9.6	4.4	0.9	短冊形	片岩	基端部欠損	刃部は研磨にり直刃を呈する	実測56	2057
20	A	6号住居跡	打製石斧	13.0	4.9	1.2	短冊形	片岩	完形		実測60	2056
21	A	6号住居跡	打製石斧	14.9	3.0	1.7		片岩	刃部欠損力?	全体の形状は棒状を呈する。	実測61	2055
22	A	8号住居跡	打製石斧	13.1	6.2	1.8	短冊形	片岩	刃部欠損力?		実測57	2063
23	A	8号住居跡	打製石斧	14.3	6.1	3.2		片岩	刃部欠損	基部片側面の一部に摩耗痕が見られる	実測63	2062
24	A	11号住居跡	打製石斧	14.9	5.3	1.3	撥形?	片岩	刃部欠損力?		実測58	2077
25	A	11号住居跡	打製石斧(磨製未成品)	12.4	5.0	3.0		片岩	刃部欠損	敲打段階の磨製石斧の未成品力?	実測62	2075
26	A	11号住居跡	打製石斧	10.8	6.0	1.4	撥形	片岩	完形	基部両面の一部に摩耗痕が見られる 報告書第60図35	実測66	2076
27	A	29号土坑	十字形石器	12.2	9.0	1.0			残欠	2方欠損する。2カ所のくびれに摩耗痕が見られる	実測21	519
28	A	36号土坑	打製石斧(磨製未成品)	19.4	6.0	3.7		片岩	完形	敲打段階の磨製石斧の未成品力?	実測64	1958
29	A	46号土坑	打製石斧(局部磨製)	13.4	3.9	1.5	短冊形	片岩	完形	基部両平面に研磨痕が見られる	実測31	1932
30	A	包含層	刃部磨製石斧	10.8	4.0	0.9	短冊形	片岩	基端部欠損	刃部両面に研磨痕が見られる	実測12	2081
31	A	包含層	打製石斧(磨製未成品)	14.6	5.0	2.0		片岩	完形	敲打段階の磨製石斧の未成品力?	実測14	1911
32	A	包含層	打製石斧	12.6	6.7	1.6	撥形	片岩	完形	刃部と基部側面の一部に摩耗痕が見られる。注記(西平式包含層)	実測70	1971
33	A	包含層	打製石斧	14.4	6.4	1.2	撥形	片岩	完形	刃部の一部に錆が残る	実測76	3250
34	A	包含層	打製石斧	14.1	7.3	1.3	分銅形	片岩	完形	基部両側に弱いくびれ	実測77	3249
35	A	包含層	打製石斧(局部磨製)	14.7	5.3	1.5	定角式	片岩	完形	刃部は研磨、基部の一部に研磨痕が見られる	実測78	3248
36	A	包含層	磨製石斧(磨製未成品)	16.1	5.5	2.4	定角式	片岩	完形	基部両側面に敲打痕、両平面に研磨痕が見られる。磨製石斧未成品力?	実測79	3247
37	A	包含層	磨製石斧	7.7	2.0	0.7	片刃力?片岩		基端部欠損	小型長方形	実測81	3251
38	A	包含層	磨製石斧	13.5	5.9	2.0	定角式		完形	断面楕円形	実測82	3252
39	A	溝状遺構	打製石斧	10.2	4.4	1.0	撥形	片岩	完形	刃部両面に摩耗痕が見られる	実測13	2095
40	B	1号住居跡	打製石斧	13.9	8.0	4.2	分銅形	片岩	完形	基部両側に弱いくびれ 摩耗痕が見られる	実測71	1984
41	B	1号住居跡	打製石斧	11.2	4.5	0.7	短冊形	片岩	基端部欠損	刃部と基部側面の一部に摩耗痕が見られる	実測75	1977

掲載No.	調査地点	遺構等	石器名称	長	幅	厚	形状	石材	部位等	特徴	実測No.	登録No.
42	B	2号住居跡	十字形石器(Y字形)	6.0	6.4	1.0		片岩	完形	2カ所のくびれに摩耗痕が見られる	実測28	2285
43	B	2号住居跡	打製石斧	10.7	3.0	0.5	分銅形	片岩	刃部欠損力？	基部両側面に弱いくびれと、片側面に研磨痕が見られる 報告書69図28	実測37	1986
44	B	3号住居跡	十字形石器	10.4	11.0	0.9		片岩	完形	報告書64図56	実測27	2284
45	B	3号住居跡	打製石斧	11.6	5.4	1.6	分銅形	片岩	刃部欠損	基部両側面に弱いくびれが見られる	実測36	2011
46	B	3号住居跡	打製石斧(刃部磨製)	19.2	4.3	3.2		片岩	完形	刃部に研磨痕、基部両側面に細かい敲打痕が見られる 報告書61図42	実測40	1996
47	B	3号住居跡	打製石斧	10.5	4.6	1.0	短冊形	片岩	完形		実測46	2003
48	B	3号住居跡	打製石斧	12.8	5.3	1.3	撥形	片岩	完形		実測47	2006
49	B	4号住居跡	打製石斧	16.3	4.6	1.4	短冊形	片岩	完形		実測54	2030
50	B	4号住居跡	打製石斧(磨製未成品)	12.6	6.3	2.8		片岩	基端部欠損	敲打段階の磨製石斧の未成品力？	実測55	2035
51	B	5号住居跡	打製石斧(刃部磨製)	11.9	5.4	1.0	短冊形	片岩	完形	刃部両面に摩耗痕が見られる 刃部磨製石斧力？	実測53	2049
52	B	5号住居跡	打製石斧	11.2	5.0	1.1	撥形	片岩	完形	刃部の片面の一部に摩耗痕が見られる	実測65	2050
53	B	5号土坑	打製石斧	5.0	5.8	0.8		片岩	刃部残欠	刃部片面に弱い摩耗痕が見られる	実測15	1913
54	B	6号土坑	打製石斧	10.0	3.3	0.5		片岩	完形	刃部片面に弱い摩耗痕が見られる 報告書61図43	実測16	1915
55	B	6号土坑	打製石斧	7.3	6.3	2.8		片岩	基部欠損	刃縁に細かな敲打痕が見られる	実測17	1916
56	B	6号土坑	磨製石斧	9.0	2.6	1.0		片岩	刃部、基端欠損	基部に研磨痕が見られる	実測18	1917
57	B	6号土坑	打製石斧	10.9	5.2	1.0	短冊形	片岩	完形	刃部両面に摩耗痕が、刃端に細かい敲打痕が見られる	実測19	1920
58	B	6号土坑	打製石斧	9.7	4.6	1.3	短冊形	片岩	基端欠損	基部片側面に弱いくびれ？	実測20	1922
59	B	6号土坑	打製石斧(磨製未成品)	11.5	7.8	2.4		片岩	一部欠損	刃縁に細かい敲打痕が見られる 敲打段階の磨製石斧の未成品残欠力？	実測29	1923
60	B	12号土坑	十字形石器	8.0	6.4	0.9		片岩	残欠	4方欠損する 4カ所のくびれに摩耗痕が見られる	実測22	1939
61	B	12号土坑	打製石斧	13.0	5.0	1.5	短冊形	片岩	完形	基部側面に細かい敲打痕が見られる。磨製石斧未成品力？	実測68	1942
62	B	13号土坑	打製石斧(局部磨製)	7.5	5.3	1.5		片岩	基部欠損	基部両平面上に研磨痕が見られる	実測30	1926
63	B	13号土坑	磨製石斧	12.7	4.9	2.5	定角式	片岩	刃部欠損		実測32	1933
64	B	13号土坑	打製石斧	11.1	5.5	1.4	短冊形	片岩	完形	刃縁に細かい敲打痕が見られる	実測33	1934
65	B	13号土坑	打製石斧	9.5	7.4	1.2	撥形	凝灰岩	刃部欠損	端部は水平で台形状を呈する 報告書61図45	実測34	1935
66	不明	不明	打製石斧	13.3	6.2	1.1	撥形	片岩	完形	刃部両面に弱い摩耗痕が見られる	実測1	2203
67	不明	不明	打製石斧	12.7	5.8	1.1	撥形	片岩	完形	刃部片面に弱い摩耗痕が見られる	実測2	2204
68	不明	不明	打製石斧	12.2	6.0	1.4	撥形	片岩	完形	刃部片面に研磨痕が残る 他の刃部は欠損力？	実測3	2202
69	不明	不明	打製石斧	11.5	3.7	1.0		片岩	完形	刃部欠損力？	実測4	2205
70	不明	不明	打製石斧	13.6	5.0	1.0		片岩	完形		実測5	2173
71	不明	不明	打製石斧	8.6	5.5	0.9		片岩	一部欠損	基部側面に摩耗痕が見られる 刃部欠損力？	実測6	2184
72	不明	不明	打製石斧	9.7	5.0	1.3		片岩	完形	刃部欠損力？	実測7	2163
73	不明	不明	打製石斧	13.8	5.2	1.0	撥形	片岩	完形	基部に弱い摩耗痕が見られる	実測8	2206
74	不明	不明	打製石斧	10.1	6.1	0.7	短冊形	片岩	刃部欠損		実測9	2174
75	不明	不明	打製石斧	8.7	4.9	0.8	短冊形	片岩	一部欠損	基部片側に横刃の可能性が考えられることから横位置で図示	実測10	2167
76	不明	不明	打製石斧	19.2	8.1	2.6	短冊形		完形		実測11	2254
77	不明	不明	十字形石器	5.9	5.7	0.5		片岩	一部欠損	1方欠損する	実測23	2116
78	不明	不明	十字形石器	6.3	6.7	1.0		片岩	残欠	細かな敲打痕がくびれに見られる。2方欠損する	実測24	2117
79	不明	不明	十字形石器	7.2	7.7	0.9		片岩	端部欠損		実測25	2118
80	不明	不明	打製石斧(局部磨製)	11.5	7.8	1.0	短冊形	片岩	基端、刃部欠損	基端部両側面に研磨痕が見られる	実測38	2157
81	不明	不明	打製石斧(局部磨製)	9.3	6.2	0.7	短冊形	片岩	基端部欠損	基部両側面に研磨痕が見られる	実測39	2150
82	不明	不明	打製石斧	23.1	9.2	5.5	撥形	片岩	刃部欠損	大型面楕円形	実測80	2253

# アミダ遺跡 出土石器 資料 I

---

嘉麻市教育委員会